

地域産業資源活用事業の促進に関する基本的な構想

1. 地域産業資源活用事業の促進に関する基本的な方針

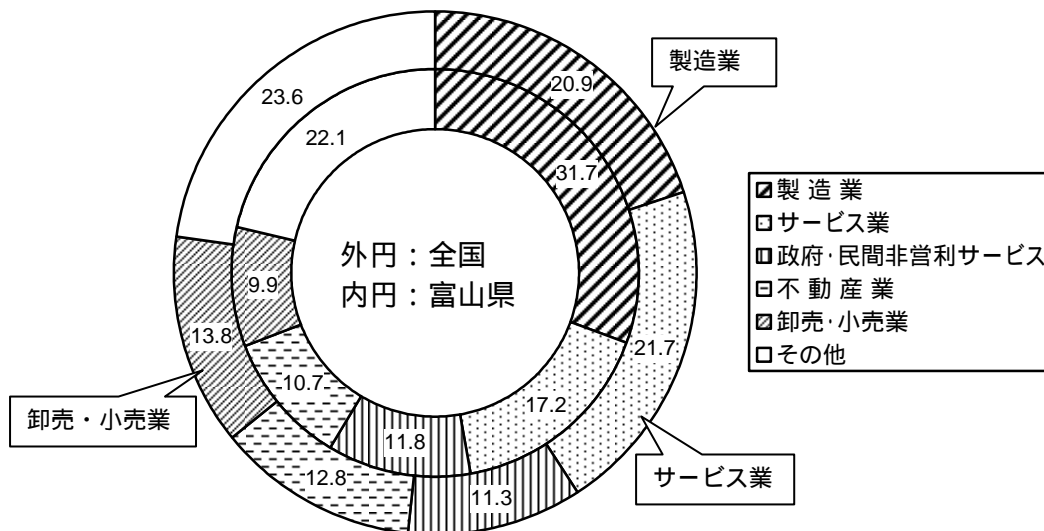
(1) 本県産業の特徴

本県はこれまで新産業都市計画、テクノポリス計画、頭脳立地計画、高度技術産業集積活性化計画などに基づき、諸施策に取り組み、交通基盤や学術研究基盤などハード・ソフト両面にわたる産業インフラ整備を進めてきた。

その結果、現在では、電子部品、機械、金属、化学工業を中心に、日本海側屈指の高度技術産業等の集積ゾーンを形成するに至っている。

本県の県内総生産額は4兆6,722億円(平成16年度県民経済計算)であり、産業別に見ると、製造業は1兆4,796億円31.7%を占め、全国20.9%と比較して約10ポイント上回っている一方で、サービス業や卸売・小売業では、全国に比べ約4ポイント下回っており、「ものづくり県」としての性格が強い。

図表 1 県内総生産の構成



資料：「平成16年度県民経済計算」

本県製造業は、医薬品などの化学工業やアルミニウム製サッシなどの金属製品製造

業の出荷額が多く、これらの業種を含む基礎素材型製造業の製造品出荷額は2兆508億円と製造業全体の57.1%を占めている。(全国36.2%：平成17年工業統計調査速報値、富山県工業統計調査)

本県の製造業事業所数に占める中小企業の割合は99.8%(全国98.8%)であるが、製造品出荷額等に占める中小企業の割合は、全国と比べ極めて高くなっている。(富山県61%、全国51%：平成17年工業統計調査)

図表 2 製造品出荷額等に占める中小企業(従業者数4~299人)の割合

(単位 百万円、%)

区 分	富山県		全 国
		全国シェア	
中小企業	2,191,371	1.5%	145,958,272
全 体	3,589,351	1.2%	295,606,417
中小企業比率	61%	-	49%
大企業比率	39%	-	51%

資料：平成17年工業統計調査速報値、富山県工業統計調査

また、ものづくりの技術やノウハウが蓄積された中小企業の集積地域として、富山地域の機械、高岡地域の鋳物、県西部地域の繊維の3つの主要な産地を有している。

富山地域では、県都富山市を核に活発な経済活動が展開されており、産業集積では工具、工作機械、ベアリング、ロボット等を製造する企業を中心とした集積や、テクノポリス計画等によって半導体製造装置、電気・電子部品、ソフトウェア開発等の先端技術産業の集積が図られてきた。

さらに、富山大学、富山県立大学等の高等教育機関、公設試験研究機関、産業支援機関が集積し、産学官連携による研究開発が進んでいる。

このため、大学、企業等の集積を活かし、産学連携によるバイオ、IT、ロボットなどの高度技術産業の振興や深層水などの地域資源を活用した新産業が創出されている。

高岡地域では、富山大学高岡キャンパス（芸術文化学部）やデザイン系の支援機関等が充実し、臨海工業地域を中心としたアルミ、鉄鋼、化学工業の集積が見られる。約 400 年の歴史を持つ高岡銅器は梵鐘や仏具等で有名であり、銅器製品の全国シェアの 90% を占めると言われている。高岡大仏はその技術を結集して造られた。

これらの地域産業、伝統産業の技術を活かした、アルミ建材・機械車両部品（ホイール、シャフト等）等の付加価値の高い製品や、コンパクトな仏具、生活日用品など魅力的な商品開発が進められている。

西部地域では、電子部品、金属製品、工作機械等の地域産業のほか、井波彫刻や城端絹織物等の伝統産業が発達している。城端絹織物は、約 400 年の歴史を持ち、江戸時代加賀藩の保護で盛んになり、明治以降は「城端羽二重」、「からみ織り」で全国有数の絹織物産地となった。

さらに、戦後の高度成長期には、経編ニットや丸編ニットで日本でも有数の産地を形成するようになり、余暇時間の増大等に伴い、スポーツウェアの製造が急速に伸びてきた。

現在でも、永年に渡って蓄積した絹の技術を生かし、ナイロン・ポリエステルを織る長繊維織物産地としての地位を保ちつつ、城端織物の新素材がミラノ・パリなどへ輸出されている。

ニット製品では、素材や多様なニーズにあわせた新しい素材やその加工技術の開発、シルエットの研究、デザイン・色の研究などの努力を続け、縦横に高伸縮性を持つツーウェイ生地を使った水着の開発や、光るニット、竹炭繊維製品等の新製品開発が行われている。

また、絹からの抽出成分を使った入浴剤や抹茶の開発、食品製造事業者によるシルクパウダーを利用したクッキー等の商品開発の動きも見られる。

このほか、本県には独自のノウハウや高い技術力を通じ、固有の分野で独占的な強みを持つ企業も多数存在している。

このように、多くの地域において、中小企業が主体の地域産業が地域経済を支えており、社会の変化に伴う新たなニーズへ対応しながら、企業活動を展開しているところである。

(2) 中小企業を取り巻く課題

一方で中小企業をめぐる環境は、経済のグローバル化による安価な海外製品の流入や消費者ニーズの多様化、少子・高齢化の進展に伴う労働力不足など、大きく変化しており、中小企業が抱える悩みも、仕入・販売、技術開発、生産管理、コストダウン、金融など多様化・高度化している。

県中小企業支援センターの相談件数においても、平成13年度の767件から、平成17年度の1,061件に増加している。

本県製造業における中小企業の事業所数は、過去10年間減少傾向にあり、平成7年には4,452事業所であったものが、平成13年に4,000事業所を下回るようになり、平成17年は3,461事業所と減少してきている。

また、従業者数も過去10年間減少傾向にあり、平成11年までは100,000人を超えていたが、平成17年は90,382人と減少している。

本県製造業の柱となっている医薬品やアルミニウム製サッシ、電子部品・デバイスは、OEM（相手先ブランド製造）や部品・部材として川下のメーカーに供給されることが多い。

これらの製品を製造している中小企業には、市場で高い評価を得られる製品をつくる技術力を持つものの一般消費者向けの製品をあつかった経験が少なく、新事業展開に取り組もうとしても、新商品開発や販路開拓が思うようにいかないという企業も少なくない。

また、本県の食料品製造業については、規模別集積状況からみると、全国よりも小規模事業所の占める割合が高いため、経済のグローバル化に伴う低価格の輸入食品との競争において、体力的な面では厳しい面もある。

一方、市場環境を見ると、競争の内容が価格だけでなく、食品安全・安心、ブランドによる高付加価値化という流れも見えてきており、生き残るためには、低価格以外の要素での競争力の確保が重要な課題となっている。

これからは、国産で安全な原材料の安定供給や高付加価値でかつ価格をおさえた製品開発のため、生産・加工・販売が地域で一体となって取り組むことが必要となっている。

伝統産業においては、国の伝統的工芸品に指定されている「高岡銅器」や「高岡漆器」、「井波彫刻」、「越中和紙」、「庄川挽物木地（材料）」など多くの産業があるが、技能・技術面では、高い水準にあるものの、後継者不足、市場の変化、原材料の確保など厳しい状況にある。

これからは、高度な技能・技術の成果を現した伝統的な商品づくりだけでなく、現代消費者の生活ニーズにあわせて商品をアレンジしたり、作り手のこだわりを高く評価する消費者層へアピールするストーリーやメッセージを付加するなど、消費者の「感性」に訴えかける商品開発・販売戦略も必要である。

このようなことから、本県においては消費者向けの商品開発や販路開拓が課題となっている中小企業が多く、この分野での支援の充実を図っていく必要がある。

（３）地域産業資源活用事業を促進する意義

中小企業がこのような厳しい状況を乗り越えるためには、新たな事業展開など経営革新に積極的に取り組むことが重要である。

新事業展開にあたり、地域にある鋳工業品の優れた生産技術や農林水産物、観光資源など、特色ある地域の産業資源を活用することは、地域の中小企業が他の地域の企業との差別化が図られ、商品やサービスの付加価値を高めることにつながる。

また、商品やサービスの付加価値が高められることにより、本県の優れた資源の価値そのものも高まることになる。

県内の地域資源を活用した中小企業の先行的な取組事例をあげると、鋳工業品の生産技術を活用したケースとして、伝統ある鑄造技術に優れたデザインを組み合わせ、インテリアや食器等の商品開発や「富山のくすり」で知られているとおり、医薬品製造技術を活用した飲料などの健康関連商品の開発等が行われている。

農林水産物を活用したケースとしては、「天然のいけす」と呼ばれる富山湾において、水揚げされる魚介類を活用した、付加価値の高い食品の開発が行われている。

観光資源を活用したケースとしては、国際的な山岳観光地である立山・黒部をはじめとした豊かな自然や伝統芸能、歴史的街並みなどを生かした、商品やサービスの開発が行われている。

このように、地域の特色ある産業資源を活用した新事業は、新商品の差別化に効果があり、地域産業の振興に寄与しているところである。

しかしながら、富山県には生活文化、歴史・伝統を育んできた地域産業資源が数多く存在することやその活用促進が地域産業の活性化手法として極めて有効な点を考慮すると、まだまだ取組みは十分とはいえない。

今後は、地域産業資源の積極的な活用促進を図るとともに、埋もれている地域産業資源の発掘にも努めていく必要がある。

(4) 地域産業資源活用事業を支援するに当たっての基本的な考え方

本県には、地域の強みとなり得る産業資源が数多く存在しているが、その資源を事業化に結びつけるノウハウを持つ企業が十分存在しているとは言えない状況となっている。

また、優れた製品を製造する技術を持つ中小企業は少なくないが、これらの企業が必ずしも商品の企画開発や販売等のノウハウを持つとは限らない。

これらのノウハウを事業者 서비스에提供する対事業所サービス業の集積について見ると、機械・装置のメンテナンスなど、ものづくり等を直接的に支援する業種では一定の集積がみられるが、商品の開発、販路開拓をサポートしていくサービス業の集積は必ずしも十分でない。

このため、地域産業資源活用事業を効果のあるものとするためには、製造技術の開発等の他に、商品コンセプト、マーケティング調査、パッケージなどのデザイン、ブランディングなどの要素について、県や市町村、関係団体、産業支援機関等が一体となって、意欲ある中小企業を支援していく必要がある。

具体的には、次のような支援事業を基本に実施していくこととする。

とやまの資源発掘ブラッシュアップについて

地域の特色ある産業資源を活用した、中小企業の意欲ある取組みを促進していくため、新商品や新サービス開発を進めている中小企業の掘り起こしを行う。

また、中小企業のビジネスプランを魅力あるものにしていくため、商工会議所・

商工会、中小企業団体中央会、デザインセンター、地場産業センターなど、地域のネットワーク形成を推進していくこととする。

ビジネスプランのブラッシュアップについては、公設試験研究機関や大学など関係機関と協力し、中小企業診断士等の専門家の助言を得て、適切な支援メニューへ結び付けていく。

地域産業資源活用事業の支援について

新たな需要を開拓し、地域産業の振興に有効な手段として期待できる新商品開発を目指す実用化技術については、地域における産学官の共同研究体に対して、研究開発支援を行う。

中小企業のビジネスプランのブラッシュアップを通じ、新規性があり、事業化の可能性が大きいものについては、とやま発となる新事業として、支援していく。

とやま発の新事業支援にあたっては、県は（独）中小企業基盤整備機構の協力を得て、（財）富山県新世紀産業機構において、「とやま発 新事業チャレンジ支援基金」を創設することとしている。

中小企業に対する基金の運用益による助成を通じて、新しい商品づくりがなされ、さらに、県外市場を視野に入れた創意ある取組みについては、地域産業資源活用事業に関する計画の国への認定申請等に対して、助言・援助等を行うことにより、地域産業資源活用事業を促進していく。

（５）関係団体等の果たす役割

また、地域産業資源活用事業を促進していくには、関係団体等における基本的な役割を明らかにし、適切に連携を図りながら、取組みを進めていくことが大切である。

具体的には、次のような視点で取り組んでいくこととする。

県

地域産業資源活用事業の範囲は農林水産物、産地技術、観光資源と多岐にわたることから、多くの担当部局が関係してくる。

このため、各担当部局は、連絡を密にし、本県中小企業が地域産業資源を活用した商品の開発、生産、役務の提供、需要の開拓等を実施する際に、適切な支援が受けられるような体制を構築する。

また、地域産業資源活用のための研究開発については、これまで当該資源に関する様々な試験研究を実施してきた公設試験研究機関（工業技術センター、総合デザインセンター、食品研究所、薬事研究所、水産試験場、農業技術センター等）の研究成果の活用や、新たな研究開発の実施等が不可欠である。

このため、県の担当各部局はこれらの機関との連携を密にしながら、中小企業が地域産業資源活用のための研究開発に際して、必要な研究シーズ等を的確に紹介できる体制を構築する。

県新世紀産業機構

（財）富山県新世紀産業機構は、テクノポリス計画推進の中核的組織である富山県技術開発財団を前身とし、これまで債務保証、技術開発助成、研修指導、調査研究等多様な支援事業を実施し、県内の産学官に幅広い人的ネットワークを築いてきているところである。

こうしたことから、新事業支援体制における中核的な産業支援機関であり、「とやま発 新事業チャレンジ支援基金事業」及び資源発掘ブラッシュアップ事業の主体でもあることから、地域産業資源活用促進事業においても中核的な役割を担い、事業に取り組む。

市町村

市町村は、本県での地域産業資源活用事業の活性化のため、中小企業への関連施策のPRを行うとともに、商工会議所、商工会、JA（農業協同組合）、JF（漁業協同組合）、観光協会等と連携して、地域産業資源の掘り起こしを実施する。

また、地域産業資源活用事業の推進が、市町村における産業活性化の手段の一つとして活用できることから、自らの産業振興政策体系の中に位置づけ、主体的に地域産業資源の掘り起こしや、地域産業資源活用事業に取り組む事業者の掘り起こし、支援機関やパートナーとなりうる事業者とのマッチング等の事業に取り組む。

商工 3 団体（商工会議所、商工会、中小企業団体中央会）

商工会議所、商工会、中小企業団体中央会は、商工業の振興を推進することにより、地域経済の活性化を通じて、地域の発展を図るため、産業経済に関する調査研究、講演会、講習会の開催、中小企業や小規模事業者等の商工業に関する相談指導、商店街活動の支援や観光振興等に取り組んでいるところである。

このため、これまで実施してきた取組みは、本県における地域産業資源活用事業の促進につながるものである。

そこで、商工会議所、商工会、中小企業団体中央会は、会員中小企業への関連施策の P R や地域産業資源の掘り起こしを行う。

また、地域産業資源の活用促進に係る必要な支援を行い、本県における地域産業資源活用事業の促進を図る。

農林水産関係団体

地域産業資源活用事業を実施するには、原材料の地域産業資源が安定的かつ持続的に活用できる状況が確保される必要がある。

このためには、中小企業と原材料の生産者との間の連携を構築する必要があるが、これまで接触の機会のないもの同士であることから仲介する窓口の存在が望まれる。農林水産品の生産者側の窓口として、生産者組織である J A、 J F 等の団体の協力、また、食品加工業の中小企業側の窓口として富山県食品産業協会の協力を得ることで、中小企業と生産者との連携がスムーズに図られることが期待できる。

そこで、 J A、 J F 等の団体は、生産者に対する施策の P R や高付加価値化につながる事業化支援は、農林水産物そのものの価値も高まり、生産の一層の振興が図られることも期待できるため、地域産業資源活用事業に対して、必要な支援を行う。

観光関係団体

観光資源を活用した地域産業資源活用事業の実施にあたっては、本県の観光資源の P R だけでなく、適切な観光資源の管理やイベント運営、安全で快適な交通手段、

宿泊施設、旅行エージェント等の連携が必要となる。

このため、県観光連盟、県内市町の観光協会を始めとする観光関係団体は、観光資源の開発支援だけでなく、本県の「おもてなしの心」の具体化など、ソフト面での様々な環境整備の促進に取り組んでいるところである。

今後も、旅行・旅館業、運輸業等の観光関連事業者等とのネットワークを活用して、官民一体となった観光事業の支援に取り組み、観光資源を活用した新産業の促進を図る。

2. 地域産業資源の内容

(1) 農林水産物

名称	地域産業資源の存する地域
細入らっきょう	富山市
どっこきゅうり	高岡市
氷見はとむぎ	氷見市
山野さといも	南砺市
アルプスさといも	滑川市
つるぎさといも	上市町
黒河たけのこ	射水市
富山しろねぎ	富山市、射水市、滑川市、黒部市、南砺市、立山町
	氷見市
富山トマト	富山市
新川きゅうり	魚津市
	入善町、朝日町
アルギットにら	滑川市
	砺波市、南砺市
みょうが	富山市
モロヘイヤ	富山市
ほうれん草	高岡市
音川早生大かぶ	富山市
五箇山赤かぶ	南砺市
ヘチマ	射水市
八尾の桑	富山市
三社柿	富山市、南砺市
ふく福柿	砺波市
水島柿	射水市

稲積梅	氷見市
入善ジャンボ西瓜	黒部市、入善町
朝日西瓜	富山市
庄川ゆず	砺波市
りんご	高岡市、射水市、砺波市、小矢部市、南砺市
	魚津市、滑川市
音川ぶどう	富山市
西布施ぶどう	魚津市
小鹿野・東福寺ぶどう	滑川市
呉羽なし	富山市、射水市
下野方なし	魚津市
宮島の栗	小矢部市
富山米	県全域
富山の大豆	県全域
富山の大麦	富山市、高岡市、射水市、魚津市、滑川市、黒部市、砺波市、小矢部市、南砺市、上市町、立山町、入善町
菅	高岡市
チューリップ	富山市、高岡市、砺波市
シロエビ	富山市、高岡市、射水市、魚津市、氷見市、滑川市、黒部市、入善町
ホタルイカ	富山市、高岡市、射水市、魚津市、氷見市、滑川市、黒部市、入善町
ベニズワイガニ	富山市、射水市、魚津市、滑川市、黒部市、入善町、朝日町
ズワイガニ	射水市
ゲンゲ	富山市、射水市
ブリ	富山市、高岡市、射水市、魚津市、氷見市、滑川市

氷見イワシ	氷見市
鮎	富山市、射水市、砺波市
鯉	高岡市
鮭	高岡市、射水市
黒部名水ポーク	黒部市
富山ポーク	富山市、南砺市
氷見牛	氷見市
鶏卵	高岡市、小矢部市

(2) 鉱工業品及び鉱工業品の生産に係る技術

名称	地域産業資源の存する地域
富山の深層水	富山市、高岡市、射水市、魚津市、氷見市、滑川市、黒部市、小矢部市、入善町、朝日町
穴の谷の霊水	富山市、上市町
黒部川扇状地湧水	黒部市、入善町
玉殿の名水	立山町
富山のくすり	富山市、高岡市、射水市、滑川市、上市町
ガラス製品	富山市、高岡市、砺波市
アルミニウム製品	高岡市、射水市
ニット製品	高岡市、射水市、南砺市、小矢部市
ばね・ぜんまい製品	黒部市
福光バット	南砺市
越中和紙	富山市、南砺市
高岡銅器	高岡市
高岡漆器	高岡市
高岡仏具	高岡市
魚津漆器	魚津市

庄川挽物木地	砺波市
井波彫刻	南砺市
織物	南砺市
越中瀬戸焼	立山町
清酒	富山市、高岡市、魚津市、氷見市、滑川市、黒部市、砺波市、小矢部市、南砺市、上市町、朝日町
かまぼこ	富山市、高岡市、射水市、魚津市、氷見市、滑川市、黒部市
ます寿し	富山市、高岡市、射水市
昆布じめ	富山市、射水市、滑川市
昆布巻き	富山市、射水市、滑川市
米菓	富山市、砺波市、小矢部市、南砺市、立山町
薬膳	富山市、射水市
	魚津市
高岡コロッケ	高岡市
氷見うどん	氷見市
干物	氷見市
地ビール	氷見市
	黒部市
かぶら寿し	砺波市、南砺市
大門素麺	砺波市
富山干柿	南砺市
利賀蕎麦	南砺市
バタバタ茶	朝日町

(3) 文化財、自然の風景地、温泉その他の地域の観光資源

名称	地域産業資源の存する地域
----	--------------

富岩運河	富山市
岩瀬の街並み	富山市
瑞龍寺	高岡市
勝興寺	高岡市
佐伯家	高岡市
棚田家	高岡市
武田家	高岡市
国分寺跡	高岡市
木舟城跡	高岡市
気多神社	高岡市
金屋町の町並み	高岡市
瑞泉寺	南砺市
築山行事（二上射水神社）	高岡市
高岡御車山	高岡市
曳山	高岡市、射水市、氷見市、砺波市、小矢部市、南砺市
たてもん	魚津市
滑川のネブタ流し	滑川市
こきりこ	南砺市
城端むぎや	南砺市
福野夜高	南砺市
やんさんま	射水市
称名滝	富山市、立山町
前田利長公墓所	高岡市
埋没林	魚津市
柳田布尾山古墳	氷見市
十二町のオニバス	氷見市
上日寺の大いちょう	氷見市

ホタルイカ群遊海面	富山市、魚津市、滑川市
黒部川扇状地湧水群	黒部市、入善町
黒部峡谷	黒部市
五箇山合掌造集落	南砺市
不動堂遺跡	朝日町
山町筋	高岡市
越中おわら	富山市
旧北前船回船問屋街	富山市
	高岡市
ガラス工房	富山市
越中和紙工房	富山市、南砺市
	朝日町
高岡大仏	高岡市
高岡銅器工房	高岡市
高岡漆器工房	高岡市
獅子舞	高岡市、射水市、氷見市、小矢部市
越中定置網漁	氷見市
散居景観	砺波市、南砺市
桜町遺跡	小矢部市
井波彫刻工房	南砺市
帆船海王丸	射水市
有峰湖	富山市
立山山麓	富山市
立山連峰	高岡市、氷見市
	立山町
雨晴海岸	高岡市
氷見海岸	氷見市

黒部湖	黒部市、立山町
黒部ダム	黒部市、立山町
立山黒部アルペンルート	黒部市、立山町
倶利伽羅源平古戦場	小矢部市
稲葉山	小矢部市
宮島峡	小矢部市
劔岳	上市町
美女平	立山町
立山カルデラ	立山町
ヒスイ海岸	朝日町
チューリップ畑	高岡市、砺波市
	入善町
水道つつじ公園	高岡市
戸出 菜の花	高岡市
塵気楼	魚津市
頼成の森 花しょうぶ	砺波市
チューリップ公園のカンナ	砺波市
夢の平 コスモス	砺波市
園芸植物園の福野スプレー菊	南砺市
内川	射水市
大間山ランドのあじさい	射水市
氷見温泉郷	氷見市
宇奈月温泉（黒部峡谷温泉群）	黒部市
庄川温泉	砺波市
万葉の里	高岡市、氷見市

古城公園(高岡城跡)	高岡市
弓の清水	高岡市
大門凧	射水市
氷見サカナ紳士録モニュメント	氷見市
湊川 虹の橋	氷見市
利賀芸術公園	南砺市
富山ライトレール	富山市
万葉線	高岡市、射水市
忍者ハットリくん列車	氷見市
宇奈月トロッコ電車	黒部市
とやま昆布街道	富山市、高岡市、射水市、魚津市、氷見市、滑川市、黒部市、上市町、立山町、入善町、朝日町
酒蔵	富山市、高岡市、魚津市、氷見市、滑川市、黒部市、砺波市、小矢部市、南砺市、上市町、朝日町
薬膳料理店	富山市
高岡のコロッケ店	高岡市
五箇山豆腐店	南砺市
五箇山の報恩講料理店	南砺市
利賀蕎麦店	南砺市
たら汁店	朝日町

3 . 地域産業資源を用いて行う地域産業資源活用事業を促進することにより当該地域産業資源に係る地域経済の活性化を推進する方策

3 - 1 . 個別地域産業資源に関する施策

(1) 「富山の深層水」関連施策

本県では、「低温安定性」、「富栄養性」、「清浄性」という特徴を持つ富山湾の海洋深層水を冷水性魚介類の増養殖、健康飲料や食品、医薬品などの分野の活用など限らない可能性を秘める資源として位置づけている。

また、その資源の有効活用のため「富山県深層水協議会」を設置し、産学官が連携・協力しながら、深層水の研究開発や商品化、ブランド確立に取り組んできている。

- ・ 「富山の深層水」ブランドの確立のため、各種PR事業に取り組み、普及や利用促進を図る。
- ・ 健康増進、食品などの分野において、特定保健用食品に認定されるような科学的裏付けを持つ深層水関連商品開発への支援や研究を推進する。
- ・ 海外市場も視野に入れた深層水関連商品の販路拡大に対し、積極的に支援する。

(2) 「富山のくすり」関連施策

富山のくすりは300年以上の長い歴史を持ち、現在でも富山の配置用医薬品は全国生産の半分を占めている。

現在では、本県の「医薬品製造技術」を生かして、医療用のものをはじめとして、配置用や店舗用の医薬品を生産し、国内の病院、薬局等はもちろん、アジア、ヨーロッパ、アメリカなど広く世界各国に輸出され、富山県薬業の名声を高めている。

- ・ 県立では全国唯一の薬事研究所や薬用植物指導センター等での研究・開発体制を充実し、創薬・育薬研究の振興を図る。
- ・ 産学官一体となったフォーラム富山「創薬」が行う情報交換や交流事業を支援する。
- ・ 「富山のくすり」のブランド力を維持強化するため、「富山のくすりフェア」の開催をはじめとした広報宣伝事業や富山オリジナルブランド医薬品の開発を支援する。

(3) 「食のとやま」関連施策

本県には、豊かな自然環境の下で、本県にしかなかったり、品質等に優れたりした農林水産物、それらを使った加工食品が豊富に存在するものの、全国的に流通し、県内外で一定の評価、知名度を得ているものは少ない。

そこで、本県産品の中から他県等産品と意識的に差異化（独自性、優位性の演出）できるもの、その意味や価値を顧客に訴え、共感、信頼感、好感を得られるようなものを「食のとやまブランド」として位置づけ、育成につとめている。

- ・ 全国的に流通している産品等について、首都圏等の消費者や富山にゆかりのある層をターゲットとして、情報発信や販売促進を強化する。
- ・ 「富山県ふるさと認証食品」の普及・販路拡大を促進するとともに、県産食材を使用した新たな「とやま名物」などの新商品開発への支援を行う。
- ・ 県食品研究所において、県産の農林水産加工品の機能性成分の分析や、新たな加工食品の開発研究を推進する。

(4) 伝統的工芸品関連施策

本県には、高岡銅器や井波彫刻、高岡漆器、越中和紙、庄川挽物木地といった経済産業大臣指定の伝統的工芸品があり、これらの産業振興を図るため、後継者育成事業、技術・技法の記録収集、意匠開発、需要開拓等の産地組合事業を通じた支援を行ってきた。

また、伝統的工芸品のPRのため県内外での展示会や、小学生を対象にした体験学習の開催、出展への支援を行ってきた。

さらに、とやまブランド推進の一環として、展示会への参加や魅力ある商品づくりに取り組んでいる。

- ・ 県外で開催される展示会やアンテナショップでの催事等への出展に対して、支援を行い、首都圏等における伝統的工芸品の販路拡大を促進する。
- ・ 産学官の連携により、新しい視点からのデザイン開発など、魅力ある商品づくりを促進する。

(5) 富山の繊維関連施策

本県では、我が国でも有数の繊維産業の産地である西部地域において、多様化する用途に対応した高機能繊維製品と先端技術による産業用繊維製品を特定分野とする、特定中小企業集積活性化計画を策定し、各種事業に取り組んできた。

具体的には、地域の企業が得意とするニット・織物等の生地製造、並びに繊維製品等に関する技術をベースに、触感・風合いに優れた商品やスポーツ衣料、高耐久性の産業資材等、様々な用途に対応した新商品開発の支援を実施している。

- ・ 県工業技術センター生活工学研究所、（社）富山県繊維協会、県総合デザインセンターの連携による技術開発、人材育成、デザインによる繊維製品の高付加価値化の支援を行う。
- ・ 展示会等への出展、新商品のPR等の広報事業、専門家による販路開拓のための指導事業、市場調査による販路開拓の支援を行う。

（６）観光振興関連施策

本県には、立山連峰や黒部峡谷をはじめとする美しい自然景観はもとより、伝統文化、世界遺産五箇山合掌造り集落などの歴史・文化、宇奈月や氷見、庄川等の温泉など、魅力的な観光資源が多数ある。

このため、観光資源のネットワーク化による滞在型観光、通年型観光の促進や、産業観光の推進、国内外での観光キャンペーンの強化等を実施してきている。

- ・ 「富山ならではの」の魅力ある観光資源を組み合わせたルートを設定し、体験型・時間消費型・通年型等の様々なモデルコースを開発・PRを行う事業を支援する。
- ・ 特徴ある路面電車や「富山のくすり」、ますの寿司や蒲鉾等の食品産業、ファスニング産業、癒し系ロボット製造など特色ある産業観光資源を活用した観光ルートの開発、PR事業に対して支援を行う。
- ・ 銅器、漆器、木彫刻、和紙等の伝統産業の生産現場や北前船、電源開発、富岩運河開発等の産業文化財を活用した観光ルートの開発・PR事業に対して支援を行う。

（７）地域資源活用促進施策

本県では、地域経済活性化のため、地域産業における新たな支援を定め、その重点施

策として、「地域資源を活用した新事業創出の支援」を位置づけている。

このため、「とやまの資源発掘ブラッシュアップ事業」や「とやま発 新事業チャレンジ支援基金事業」を創設することとした。

- ・ 地域資源を活用した中小企業の意欲ある取組みの掘り起こしやビジネスプランのブラッシュアップのため支援を行う。
- ・ 地域資源の活用による中小企業者の新事業展開を促進するため、基金により、新商品・新サービスの開発から販路開拓まで総合的な支援を図る。

3 - 2 . 関連する施策

本県においては、中小企業による地域産業資源を活用した事業を促進し、地域経済の活性化を図るため、次の中小企業支援施策を実施する。

中小企業支援体制の充実強化

- ・ 「県中小企業支援センター」を中心とした企業・商工団体、大学等、行政、金融機関の連携の強化を図る。
- ・ 県中小企業支援センターから中小企業に対し、豊富な知識と経験を持つ専属マネージャーや専門家を派遣することにより、適切な支援を実施する。
- ・ 小規模事業者のニーズの高度化に対応できるよう、商工団体等の組織基盤の強化を図る。
- ・ 公設試験研究機関における、中小企業に対する技術、製品開発等の相談機能の充実を図る。
- ・ 知的所有権センターの特許流通アドバイザーによる企業ニーズの把握や技術シーズとのマッチングを実施し、特許導入を希望する企業に対する相談・支援を充実する。

人材育成と能力開発

- ・ 新規創業者を対象とした「とやま起業未来塾」や中小企業経営者等を対象とした研修を実施し、地域の産業を支える優秀な人材を育成する。
- ・ 技能者の育成のために積極的に取り組んでいる熟練技能者を「とやまの名匠」に認定し、とやま技能継承塾を開催するなど、技能継承のための技術指導を実施する。
- ・ 企業の人材ニーズに応じた、オーダーメイド型訓練を実施するなど、職業能力開発校の訓練を充実する。

経営革新の促進

- ・ 新たな生産方式の導入など企業経営の革新的な取り組みや異なる分野の企業等との連携の取り組みに対して支援を行う。
- ・ 中小企業が開発して一定の評価を受けた新商品を認定し、県による購入・評価支援を行うトライアル発注事業を実施する。

産学官の連携強化

- ・ 大学、高等専門学校、試験研究機関、産業支援機関、企業等による研究ネットワークの形成や研究者の交流を促進する。
- ・ 県内企業の技術ニーズと県立大学の技術シーズをマッチングし、地元密着型の産学官連携を推進するための県立大学地域連携センターの機能を強化する。
- ・ 工学・医薬学研究やデザイン開発分野等において、富山大学等との産学官連携を促進する。
- ・ 新技術・新商品開発のための産学官共同研究を推進する。

資金面の支援

- ・ 設備投資・経営革新など中小企業の積極的な取り組みや企業経営の安定を支援するため、県融資制度を活用した円滑な資金供給を推進する。
- ・ 担保力や信用力の弱い中小企業を支援するため、信用保証制度を活用し、中小企業の資金調達を支援する。
- ・ 「(財)富山県新世紀産業機構」の「元気とやま中小企業総合支援ファンド」を活用した、社債の引き受け等による支援を行う。

国内外における販路開拓支援

- ・ 物販コーナーにおける県産品の展示販売の強化など、東京アンテナショップ「いきいき富山館」の機能を充実する。
- ・ 県内企業の機能性・デザイン性に優れた製品を、「富山プロダクツ」として認定、顕彰し、認定製品を県内や国内外に広くPRするとともに、販売促進を支援する。

地域産業・伝統産業の振興

- ・ 協同組合等の業界団体が取り組む、各種展示会を通じた国内外へのPRや販路開拓を積極的に支援する。
- ・ 日本貿易振興機構（ジェトロ）等との連携を強化し、中国や欧州等で行われる主要な見本市への企業の出展活動を支援する。

- ・ 工業デザイン分野において、イタリアのミラノとの交流を行う「富山・ミラノデザイン交流倶楽部」の活動を支援し、ミラノ在住デザイナーと県内企業との共同商品開発や、新たなビジネスの創出を促進する。